

□海外文献紹介□

スリンダックは家族性大腸ポリ
ポシスの直腸ポリープを退縮さ
せる

Sulindac causes regression of rectal polyps in familial adenomatous polyposis: *Labayle D, et al* (*Gastroenterology* 101: 635-639, 1991)

癌化への進展が避けられない家族性大腸ポリポシスでは、予防的に結腸切除および空腸直腸吻合術を施行することが正当化されている。しかしそれでも空腸直腸吻合術後の直腸癌の累積発生率は5年後に5%、23年後には59%にまで達する。そのため患者は術後も定期的にポリープをホットバイオプシーするか、スネアーで切除するか、レーザーで焼

灼する必要がある。

一方、非ステロイド系炎症剤であるスリンダックが家族性大腸ポリポシスのポリープを退縮させることは、1983年以来、数名の研究者により報告されてきた。

本論文の最終目的は、かつて結腸切除と空腸直腸吻合を受けた10人に無作為の二重盲検法で交互にスリンダックとプラセボを投与することによってこの結論を確かめることである。5名の患者はスリンダック300 mg/日を4か月間内服後、1か月間休薬し、その後プラセボを4か月間内服した。残りの5名は最初の4か月間プラセボを内服し、1か月間の休薬の後、4か月間スリンダックを内服した。コンプライアンスの悪い1名は検討から除外した。スリ

ンダック投与中では直腸ポリープの完全退縮は6名、ほぼ完全退縮は3名に認められた。プラセボ投与中では直腸ポリープの増加が5名、無変化が2名、比較的減少が2名認められた。両者間で統計的に $p<0.01$ で有意差を認めた。著者らは更に生検の検体により、モノクローナル抗体であるki 67を使用して、細胞増殖指数を免疫組織化学的に研究し、内服前後でki インデックスに変化を与えるか検討したが、有意差は認めなかった。しかし著者らはスリンダックは家族性ポリポシスの直腸ポリープを退縮させるのに有効であったと結論している。

(愛知県がんセンター消化器内科

高木 篤 抄)